

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成 16 年 10 月 28 日 (2004.10.28)

【公表番号】特表 2000-512994 (P2000-512994A)

【公表日】平成 12 年 10 月 3 日 (2000.10.3)

【出願番号】特願平 10-502897

【国際特許分類第 7 版】

C 07 D 471/04

// A 61 K 31/00

A 61 K 31/435

【FI】

C 07 D 471/04 105 C

C 07 D 471/04 101

A 61 K 31/00 637 A

A 61 K 31/435 605

【手続補正書】

【提出日】平成 15 年 10 月 22 日 (2003.10.22)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】補正の内容のとおり

【補正方法】変更

【補正の内容】

## 手 続 補 正 書

平成15年10月22日

特許庁長官 今 井 康 夫 殿

## 1. 事件の表示

平成10年特許願第502897号

## 2. 補正をする者

名称 ミネソタ マイニング アンド マニュファクチャリング  
カンパニー

## 3. 代 理 人

住所 〒105-8423 東京都港区虎ノ門三丁目5番1号 虎ノ門37森ビル  
青和特許法律事務所 電話 03-5470-1900

氏名 弁理士(7751) 石 田 敬



## 4. 補正対象書類名

(1) 明 細 書

(2) 請求の範囲

## 5. 補正対象項目名

(1) 明 細 書

(2) 請求の範囲

## 6. 補正の内容

(1) 明細書の第2頁第16行の「 $R_s$ および $R_t$ 」を『 $R_s$ および $R_t$ 』に補正します。

(2) 請求の範囲を別紙の通り補正します。

## 7. 添付書類の目録

請求の範囲

1 通

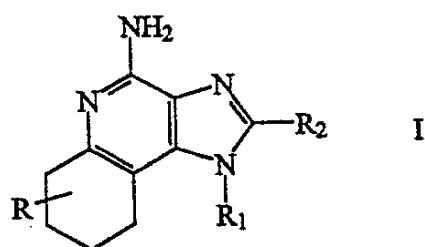


方 式 査 査



## 請求の範囲

## 1. 式I、

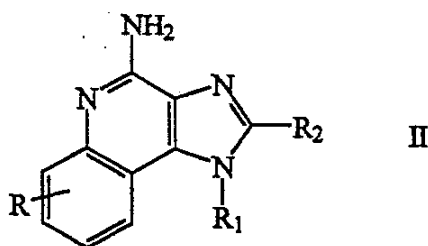


(式中、 $R_1$ は、水素と、3、4、または5個の炭素原子を有するシクロアルキルと、1～10個の炭素原子を含有する直鎖または分枝鎖アルキルおよび1～10個の炭素原子を含有する置換直鎖または分枝鎖アルキル（置換基は、3～6個の炭素原子を含有するシクロアルキルと、1～4個の炭素原子を含有する直鎖または分枝鎖アルキルによって置換された3～6個の炭素原子を含有するシクロアルキルとからなる群より選択される。）と、1～6個の炭素原子を有するヒドロキシアルキルと、アルコキシ部分が1～4個の炭素原子を含有し、アルキル部分が2～6個の炭素原子を含有するアルコキシアルキルと、アシルオキシ部分が2～4個の炭素原子を有するアルカノイルオキシまたはベンゾイルオキシであり、アルキル部分が1～6個の炭素原子を含有するアシルオキシアルキルと、1～4個の炭素原子を有するアミノアルキルと、アルキル部分が2～4個の炭素原子を含有するモルホリノアルキルとからなる群より選択され、

$R_2$ は、水素と、1～8個の炭素原子を含有する直鎖または分枝鎖アルキルと、 $-C(R_s)(R_t)(X)$ （式中、 $R_s$ および $R_t$ は、水素と、1～4個の炭素原子を有するアルキルとからなる群より独立に選択され、 $X$ は、1～4個の炭素原子を含有するアルコキシと、アルコキシ部分が1～4個の炭素原子を含有し、アルキル部分が1～4個の炭素原子を含有するアルコキシアルキルと、アルキル基が1～4個の炭素原子を含有するアルキルアミドと、アミノと、置換基が1～4個の炭素原子を有するアルキルまたはヒドロキシアルキルである置換アミノと、アルキル部分が1～4個の炭素原子を含有するモルホリノアルキルとからなる群より独立に選択される。）とからなる群より選択され、

Rは、水素と、1～4個の炭素原子を含有する直鎖または分枝鎖アルキルとからなる群より選択される。) の化合物を調製する方法であって、

(i) 式II、



(式中、R、R<sub>1</sub>、およびR<sub>2</sub>は、上で定義した通りである。) の化合物を用意するステップと、

(ii) 式IIの化合物の強酸中の溶液または懸濁液を酸化白金 (IV) の存在下、水素圧下で還元するステップと、

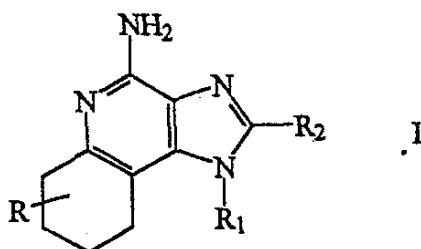
(iii) 式Iの化合物または薬学的に許容可能なその付加塩を分離するステップ、  
を含む方法。

2. R<sub>1</sub>が、1～8個の炭素原子を含有する直鎖または分枝鎖アルキル、および1～6個の炭素原子を含有するヒドロキシアルキルからなる群より選択される請求項1に記載の方法。

3. R<sub>2</sub>が、水素と、1～4個の炭素原子を含有する直鎖または分枝鎖アルキルと、アルコキシ部分が1～4個の炭素原子を含有し、アルキル部分が1～4個の炭素原子を含有するアルコキシアルキルとからなる群より選択される請求項1に記載の方法。

4. Rが水素である請求項1に記載の方法。

5. 式I、

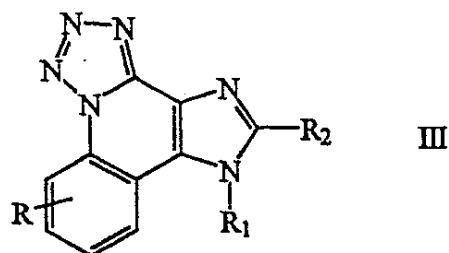


(式中、 $R_1$  は、水素と、3、4、または5個の炭素原子を有するシクロアルキルと、1～10個の炭素原子含有する直鎖または分枝鎖アルキルおよび1～10個の炭素原子を含有する置換直鎖または分枝鎖アルキル（置換基は、3～6個の炭素原子を含有するシクロアルキルと、1～4個の炭素原子を含有する直鎖または分枝鎖アルキルによって置換された3～6個の炭素原子を含有するシクロアルキルとからなる群より選択される。）と、1～6個の炭素原子を有するヒドロキシアルキルと、アルコキシ部分が1～4個の炭素原子を含有し、アルキル部分が2～6個の炭素原子を含有するアルコシアルキルと、アシルオキシ部分が2～4個の炭素原子を有するアルカノイルオキシまたはベンゾイルオキシであり、アルキル部分が1～6個の炭素原子を含有するアシルオシアルキルと、1～4個の炭素原子を有するアミノアルキルと、アルキル部分が2～4個の炭素原子を含有するモルホリノアルキルとからなる群より選択され、

$R_2$  は、水素と、1～8個の炭素原子を含有する直鎖または分枝鎖アルキルと、 $-C(R_s)(R_t)(X)$ （式中、 $R_s$  および  $R_t$  は、水素と、1～4個の炭素原子を有するアルキルとからなる群より独立に選択され、 $X$  は、1～4個の炭素原子を含有するアルコキシと、アルコキシ部分が1～4個の炭素原子を含有し、アルキル部分が1～4個の炭素原子を含有するアルコシアルキルと、アルキル基が1～4個の炭素原子を含有するアルキルアミドと、アミノと、置換基が1～4個の炭素原子を有するアルキルまたはヒドロキシアルキルである置換アミノと、アルキル部分が1～4個の炭素原子を含有するモルホリノアルキルとからなる群より独立に選択される。）とからなる群より選択され、

$R$  は、水素と、1～4個の炭素原子を含有する直鎖または分枝鎖アルキルとからなる群より選択される。）の化合物を調製する方法であって、

(i) 式III、



(式中、R、R<sub>1</sub>、およびR<sub>2</sub>は、上で定義した通りである。)の化合物を用意するステップと、

(ii) 式IIIの化合物の強酸中の溶液または懸濁液を酸化白金(IV)の存在下、水素圧下で還元するステップと、

(iii) 式Iの化合物または薬理学的に許容可能なその付加塩を分離するステップ、  
を含む方法。

6. R<sub>1</sub>が、1～8個の炭素原子を含有する直鎖または分枝鎖アルキル、および1～6個の炭素原子を含有するヒドロキシルアルキルからなる群より選択される請求項5に記載の方法。

7. R<sub>2</sub>が、水素と、1～4個の炭素原子を含有する直鎖または分枝鎖アルキルと、アルコキシ部分が1～4個の炭素原子を含有し、アルキル部分が1～4個の炭素原子を含有するアルコキシルアルキルとからなる群より選択される請求項5に記載の方法。

8. Rが水素である請求項5に記載の方法。